



<http://hatoh.net/>

波 濤

第 53 号

発行 放送大学神奈川同窓会
編集委員会
責任者 佐栞 慎二
発行日 平成29年7月14日
会員数 605名(平成29年4月1日現在)

Anyone who keeps learning stays young



会長 佐栞慎二

神奈川同窓会は新年度に 34 人の新たな会員をお迎えし会員総数 605 人でスタートしました。今年度も様々な企画や行事を実施し、会員の皆さんにとって放送大学同窓生としての誇りと絆を

強めて頂けるよう考えています。引き続きご協力のほどよろしくお願ひします。

新年度に先立ち 3 月に学習センターでは大学と大学院を合わせて 222 人の方が卒業・修了されました。そのうち 62 人の方が出席されて「卒業生の集い」が行われました。式典では池田センター長や客員教授の祝辞を頂きました。同窓会長として私から「Anyone who keeps learning stays young」というヘンリー・フォードの言葉を紹介して、これからも学び続けて若さを保って下さいと話しました。その後、特別に 3 人の方が紹介されました。その中で 86 歳の奥隅廣介さんは卒業生の中で最高齢者として、ま

た高橋知成さんは不自由なお身体にもかかわらず優秀な成績で卒業されたとして表彰されました。もう一人赤嶺治美さんはグラントスラムを達成され、NHKホールで行われる学位記授与式で表彰されることが紹介されました。なお奥隅さんは 10 年以上前から同窓会会員であり、また高橋さんと赤嶺さんは今回の卒業を機会に同窓会に入会して頂きました。

ところで学習センターでは 4 月に所長の交替がありました。過去 4 年にわたり熱心にご指導頂きました池田所長は放送大学副学長に就任され、後任の所長には横浜国立大学から福富先生をお迎えしました。同窓会としては福富先生にご指導を仰ぎながら、学習センターと協力関係をより一層強固なものにしていきたいと思ひます。



就任のご挨拶

神奈川学習センター所長 福富洋志



池田龍彦前所長の後任として、本年 4 月に放送大学神奈川学習センター所長に就任致しました。ご存じかもしれませんが、神奈川学習センターで仕事をさせていただくのは初めてではありません。

昨年、そして一昨年には「金属材料の科学と工学」の面接授業を開講させていただきましたし、本年 1 月からは客員教授を務め、学習センターの

様々な行事に参加させていただきました。着任前の 3 月までは横浜国立大学理工学部におきまして主に金属材料を対象とする材料工学分野を担当していました。20 代が中心の若者に教養や専門の講義をするとともに特定の課題について研究を指導して進め、結果を学生諸君と一緒に考えて更に歩を進めることで、大学の設置目的である学問の高度化と人材育成に努めて参りました。放送大学の設置目的も同じですが、これからの私の役割は、10 歳代から 90 歳代の幅広い年齢層の学生の皆様が在籍する神奈川学習センターでの皆様の学習の支援や学習環境を整えること

であると認識致しております。放送大学には、例えば学士(教養)の取得など具体的に目標を定めて学んでいる方だけでなく、学ぶことに喜びを感じ、学ぶことによる自分の成長を期待して学業を続けている方もおられます。勉学意欲の高い様々な年代の皆様への期待にどのように応えていくのか、客員教授や事務職員の方々、そして勉学意欲に燃える様々な年代の学生の皆さんとまず十分なコミュニケーションを重ねて行きたいと思っております。

放送大学は教養学部教養学科のみで構成され、生涯に渡り学習を続けることができる単科大学です。なぜ教養学科単一学科なのか、への答えは学歌にうかがうことができます。「知は力 ^{いのち ひら}よりよい生を拓くため」

と言う一説です。高い知性、優れた教養が人生のあらゆる場面での個々人の正しい選択を可能にする力を生み、それが豊かな人生を拓くことを本学は謳っているのです。通信制大学であることには利点も弱点もありますが、放送大学で使われている教材の質の高さ、工夫された面接授業は大きな利点です。これを大いに活用していただきたいと思っております。

「生きるとはまなぶこと まなぶのはたのしみ」は同じく放送大学の学歌の一節です。学生の皆様が日々学びの気持ちを持ち続けていただけるよう、より良い学習の場として神川学習センターが機能し発展していくために力を尽くして行きたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

第28回通常総会

事務局長 大木陸夫

平成29年5月19日神奈川同窓会の通常総会が、神奈川学習センターにおいて開催されました。総会には42名の会員が出席し、296名から委任状の提出があり総会の成立が報告され、平成29年度の活動計画など5件の議案が可決されました。新たに3名の役員と1名の准役員が選任され、福富センター長が顧問に就任されました。

総会后、小泉淳一客員教授の「疲労：解ってきたこと」の講演会がおこなわれ、会員や学生の皆さんが多数参加されました。

その後は、会場を上大岡に移し懇親会が開催されました。初めて参加の会員の方から今後の活動にも参加したいとの挨拶がありました。



小泉先生特別講演会「疲労：解ってきたこと」

第28回神奈川同窓会通常総会后、小泉淳一先生(横浜国立大学名誉教授/放送大学客員教授)をお願いし、

慢性疲労症候群(chronic fatigue syndrome:CFS)について講演していただきました。先生の専門は生物システム工学で、今回はヒトの難病疾患について客観的な診断手法の開発に関わる先端研究を紹介していただきました。CFSとは、これまで健康に生活していた人が対人的、物理的、生物的な複合ストレスがきっかけとなり、ある日突然原因不明の激しい倦怠感に襲われそれ以降強度の疲労感と共に微熱、頭痛、脱力感、思考力の障害、抑うつ等が続き、健全な社会生活を送れなくなる疾患という。

ヒトが異常を感じる三大アラーム(警報)

発熱：個人毎の平熱 $\pm 1^{\circ}\text{C}$ で気が付く

痛み：ヒトには痛点があるので気が付く

疲労：異常に気が付きにくい(無理をする)

慢性疲労症候群(CFS)に陥るメカニズム

神経系、免疫系、内分泌系が単独ではなく複雑に(滝のように)作用し、脳認知機能への異常な情報伝達回路(ネットワーク)が脳内に形成され陥ってしまう。

対策：自分の自律神経機能の傾向を知り、ストレス環境の変化を知り、それに合った生活、運動を！という。

「病は気から」という諺の質問に、悪いことを考えると悪くなる！想念は毒にも薬にもなるようです。

(金田保男)



池田所長歓送会をふりかえって

垣谷江里子

2013年に着任された池田龍彦所長が神奈川を後にされることとなり、同窓会、サークル協議会、K-サポートが合同で「歓送会」を開催する運びとなったため、私もK-サポート事務局として幹事の一員をつとめさせていただきました。

2017年2月26日は、まず15時から第8講義室で「所長のお話し」として、ご自身の半生を、運輸省そして国土交通省でのお仕事を中心に紹介され、“It's a small world.”:「出会いを大切に」と示唆されました。早稲田大学理工学部ボート部のご同輩お二方も駆けつけ、往時を懐かしんでいらっしゃいました。

16時からの「歓送会」は、第6・7講義室に170名以上が参集しました。K-サポートの安田武夫さんのご挨拶を皮切りに、乾杯のご発声に代わって所長のお仲間が童謡「ぞうさん」を披露され、そのあと参加者も唱和して宴がはじまりました。所長がご用意くださった泡盛やお菓子などをいただきながら歓談しているとあっという間に17時が過ぎました。藤田廣司事務長からのお礼の言葉、資格研究会遠田(えんだ)雄子さんからの花束の贈呈。神奈川合唱団が学歌を合唱し、続く「蛍の光」の歌声の中、所長が会場を後にされました。

2017年度から放送大学の副学長となられた池田先生には、これからも神奈川学習センターを見守っていただけたら…と願っております。



故木村勝紀元会長追悼の言葉

会長 佐栞慎二

神奈川同窓会元会長の木村勝紀様は3月16日敗血症のため病院で急逝されました。3年前に悪性リンパ腫を発病され、血液専門の病院で治療を開始されました。病気と闘う木村様の強いお気持ちと適切な治療の結果、1年後には驚くほどに回復されました。その後は大学の行事にも積極的に参加され、今年3月12日には元気で77歳の喜寿を迎えられました。ご本人は米寿やさらにその先まで目指すと力強い決意を語られ、また放送大学の教材を入手して、新たな学びの準備を進めておられた矢先の急逝でした。

木村様は2001年7月に会社を定年退職されました後、同年10月放送大学に入学され、その後大学と大学院で学び続けられました。一方で学友との交流に熱心に取り組み、2001年サークルの放友会に入会、2006年には会長に就任されました。また同年卒業と同時に同窓会に入会され2011年には会長に就任。さらに同窓会連合会の会長も務められました。深い教養と東京生まれの都会人らしい粋なセンス、暖かく飾らぬ性格で、常にみんなの中心になる人でした。神奈川同窓会が全国の同窓会のモデルとなるよう発展してきたのも、木村様の力強い指導力の賜物です。

木村様は日ごろからよく「我が人生に悔いなし」と言っておられました。家庭を大切にされながら、現役時代は高度成長の中、仕事に没頭され、退職後は放送大学で15年間、勉学と学友との交流に常に全力投球され、充実した第二の人生を心から楽しんでおられました。その意味では木村さんらしい決然とした見事な人生の幕引きをされたと言えます。

木村様は今年2月の句会でこんな句を詠まれました。「梅咲いてほころぶ昼の幕の内」。体調を気遣いながら春の訪れを喜んでおられる様子が伝わります。「友の死やなお鮮やかに落ち椿」。放送大学入学以来木村様を兄のようにお慕いして参りました私の句です。我々は木村様の長年にわたるご指導・ご厚誼に心からお礼申し上げますと共に、ご遺志を引き継ぎ、神奈川同窓会をより一層発展させるようお誓い申し上げます。



故木村勝紀元会長

卒業生の言葉

知ることはよろこび

関口静子



“あまたのほしほしのなかの♪”この学歌を歌えるようになったのは、卒業間近になってからでした。3月25日のNHKホールの卒業式では、全国各地からの学友らと一緒に大きな声で

歌いました。

放送大学の学びの初めは、自分の好きな日本文学を中心に勉強して来ました。『和歌の心と情景』『和歌文学の世界』『日本語概説』『日本文学の読み方』『日本の近代文学』とおおよそ取ってしまうと、日本文学は無くなりました。しかし歴史や芸術の世界へ目を転じてみると、もっと広い世界があるのです。

『日本古代中世史』『歴史からみる中国』『世界の名作を読む』『ヨーロッパ文学の読み方』『舞台芸術の世界』『西洋芸術の歴史と理論』などを学び、多くを知りました。幅広く学んだからこそ、ひとつのものを奥深く掘り下げてみたいという思いにかられました。

2年も過ぎた頃、やはり卒業研究をやってみようと思ひ資料を集め始めました。それは『和歌の心と情景』の教材の「南北朝時代の和歌」の中の、永福門院の和歌に惹き付けられたからでした。懐れの島内裕子先生にお会いできることも、大きな励みでした。毎月文京学習センターへ通ひ、少しずつ論文という形にしていきました。永福門院という中世の歌人を読み解き自分の論を作り上げていくことは、授業を受けるだけでない創作する喜びがあります。

或る先輩の卒業生の言葉に「放送授業はショーウインドーに並べられた料理のようだ。そこから美味しそうな料理を選ぶ。面接授業はデザートのようなもの。それらに比べて卒業研究は自前のレシピで作る料理と言ってよい」というのがありました。本当にそうだと思います。編入でありながら卒業に4年かかりました。

さてこれからもう一つ論文に挑戦したい気持ちはありますが、その場が与えられるでしょうか。またこれからもサークルの仲間の輪の中にいながら、学友らと肩を並べて刺激を受け、また少しでも前に進んで行けたらと思っています。

私の大学生生活

高橋知成



神奈川学習センターでの「卒業生の集い」や『はるだより』あるいはこれまで縁のあった方々にご存じかもしれませんが、そうでは無い方々もいらっしゃること

でしょう。ですので、まず私のことを知らない方のために大雑把な自己紹介をしたいと思います。

私は26歳の脊髄性筋萎縮症の肢体不自由者で、18歳の高校卒業後、放送大学に入学し8年ほど勉強を楽しみました♪。本誌ではこれまでの8年間について振り返ってみたいと思います。1～2年目は、様子見といえますか手探り状態といえますか、自分のペースで以前から興味があった心理学などの基礎から学び始めました。しかし、最初のころの期末テストはとても緊張しましたね。だって、お腹が痛くなりましたから！(笑)。それはそれとして自宅学習の多い放送大学では、大半の方は自宅でテレビやラジオを聴きながら勉学に励むと思われるのです。私も自宅のテレビで放送授業を受けられたのですが、どこで見聞きしたのか定かではありませんけれども、“人間は退屈でも死ぬ”。お恥ずかしながらまさに私なんかはその典型で、最初は週2回、気分転換も兼ねて神奈川学習センターに通ひDVDやCDを借りて学習していました。もしかしたら今思えば、このような生活習慣や思考回路が後の卒業研究のテーマに結び付いたのかもしれませんがね。ちなみに私の卒業研究のタイトルは、『肢体不自由者の余暇外出と自尊感情との関係について』です。

1～2年目以降は思い返してみると、過去などを振り返り自分自身を再認識する…そういう期間だったように思います。そして、最後の2年ほどは、自分は将来、何ものになるのか…そういうことに思いをめぐらす時期でした。厳密に言えばそれはまだ続いているという状況なのですが、ひとまず今のところはしばらく人生を楽しんでいこうと思っています♪。はっきりした事はわかりませんがそれが良いと思ったのです。こんな私から言える事は大して無いのですが、強いて言えば、今ある“自由”を大切にしてください。

卒業生ショートメッセージ

- ◆二宮町 松井恵也(とくや):1.今までバラバラの知識が拡大の勉強で整理され、自信となった事。
2.レク・サークルに加入して多くの人と食事会や映画鑑賞を通じて意見交換できた事。
- ◆日野市 田中千雄:大学院の2年と言う修業年限で仕事に負担を掛けずに卒業する方法として、まず修士選科生となり少しずつ研究指導以外で卒業に必要な単位を取得し、初めて修士全科生の入試に臨みました。そして修士論文の指導をうけ、無事卒業を迎えました。
- ◆横浜市 赤嶺治美:6コース卒業し名誉学生になりました。これで一応区切りがついた思いですが、全コース終了迄に実に32年も費やしました。それは次から次に興味を引く科目があったことも一因です。苦にならなかった。ただ面白かった。これからもワクワクしながら楽しく続けようと思います。
- ◆鎌倉市 小林 光:3月に「自然と環境」を卒業しました。4月からは「情報」に再入学しました。これまでに、16学習センターで面接授業を受けました。妻と一緒に、全国制覇を目指しています。
- ◆横浜市 野間弘子:入学したのは47歳の時でした。介護福祉士の資格を取る為でした。ヘルパーの仕事をしながらか家事と忙しい中で資格(54歳の時取得)を取り、今卒業出来たこと、感謝と諦めなかった自分をほめたいと思います。
- ◆厚木市 糸 結花子:入学当初はやる気もなく、仕事が忙しかったので試験も受けていない状態でしたので、まさか卒業できるとは思いませんでした。卒業できてサイコーにうれしいです。
- ◆横浜市 大沼知恵枝:起立性調節障害の子どもを持ったことで、心理学を勉強したくて、四年半。卒業と同時に、より実践にと、社会福祉士をめざしてこれから2年がんばります。ここは私の背中を押してくれました。
- ◆横浜市 中田昭道:放送大学の大学院の「情報学コース」で学びました。よろしくお願ひ申し上げます。
- ◆横浜市 上原澄男:私の入学の動機は、大学卒業資格を取りたいということでした。いまその夢が叶ったことがとてもうれしいです。学生生活を通じて諸先生の指導と、先輩の方々の学びを追求する姿勢に刺激され、学ぶことの楽しさを味わえました。ありがとうございました。

28年度学位記授与式・祝賀パーティ

3月25日、全国の学習センターから卒業生・修了生が陸続と集い、11時から学位記授与式がNHKホールで挙行されました。

祝賀パーティでは参加者700名余、同窓会関係者も多数参加する中、岡部学長指揮による学歌斉唱から式典が始まりました。退任される諸先生方への記念品贈呈と謝辞がそれに続き、滞りなく式次第が進行しました。

祝賀パーティの会場は今年から新宿の「ハイアット・リージェンシーホテル東京」に移し、広い会場が狭く感じるほどの盛況でした。軽快なジャズの演奏、そして人気の「銘酒コーナー」には、各県を代表する銘柄の日本酒、焼酎、ワインが並びました。パーティは同窓会連合会役員その他、南関東地区の同窓会役員も協力して運営にあたり、神奈川同窓会は、ホテルへのバス誘導、銘酒コーナー、記録、会計などを担当しました。

(永井藤樹)



会員投稿

「放送大学叢書」誕生のエピソード

放送大学叢書の発行に尽力された柏倉康夫放送大学名誉教授にお話を伺いました。



古内 都

古内 放送大学叢書は、先生が副学長のときに企画されました。なぜ叢書を出そうと考えられたのですか？

柏倉 放送大学の授業は、テレビやラジオの放送を視聴するとともに、担当講師が執筆した印刷教材が、大学から学生さんのお手許に送られます。これは先生たちが専門分野の最新の知見を織り込んで執筆したテキストです。一部の書店では販売されていますが、そんな本屋さんには多くはありません。放送大学の授業は原則 2 クール 8 年で終了し、折角の印刷教材を手にする機会がなくなってしまいます。

古内 もったいないですね。

柏倉 ネット上の古本市場で見かけますが、結構高く売られていました。そうした事情を考えて、印刷教材そのものを再現するのではなく、一般読者にも読んでもらえる本として出版できないかと考えたのです。授業修了後は著作権が著者に返されますから、先生方の賛同が得られれば実現することが出来ます。

古内 先生方の反応はいかがでしたか。

柏倉 現役の先生も、かつて授業を担当して下さった外部の先生方も、諸手をあげて賛成してくれました。そこで読者はどんな本を欲しているかをリサーチすることにしました。

古内 神奈川学習センターにいらして、学生の人たちと座談会を開きましたね。

柏倉 編集と出版を引き受けてもらう左右社の小柳 学さんも一緒に、いろいろと要望を出していただきました。古内さんも出席してくださいましたね。

古内 はい、20 人ぐらい集まっていると申し上げました。

柏倉 内容については、何よりも読みやすく、それでいて最新の知識を盛り込んでほしい、形態については電車などで読めるように、小型で軽くなるように紙

の質も配慮してほしいという意見が出ました。あれは大変参考になりました。いまの叢書はこの要望に沿ったものです。

古内 どの授業を叢書にするかの選択は、左右社さんが決めるのですか？

柏倉 いいえ、私の在職中は各専門分野の先生から推薦を受け、学内の叢書委員会で決めていました。平成 21 年 (2009 年) 3 月に、最初の配本として、『茶の湯といけばなの歴史』、『動物の生存戦略』、『音楽家はいかに心を描いたか』の 3 冊が出版されました。

古内 これまでに 8 年間で 37 冊が出ていますが、先生の印象に残っている本は？

柏倉 どれも思い出深いのですが、笠原 潔先生の『音楽家はいかに心を描いたか』は、先生がご病気のなかで印刷教材をリライトされたのですが、不幸にしてお亡くなりになり、葬儀の際に、ご遺族から USB を手渡されました。僭越ですが、私がそれを整えて出版にこぎつけた一冊です。よい供養になったと思っています。

また渡邊二郎先生の『自己を見つめる』は名講義と評判だったものですが、元学生の方たちから「この授業、このテキストのおかげで、いまの私の人生がある」という声が多く寄せられ、ご遺族（先生は 2008 年に亡くなりました）の賛同を得て、テキストのまま出版しました。左右社の小柳さんによれば、4 版まで出ていて、いまでも読みつがれているとのこと。私も各叢書を読んで多くを学んでいます。

古内 このようにして生まれた優れた叢書を神奈川同窓会では受託販売し、手数料を「あしなが育英会」に寄付するという社会貢献活動を続けております。私どもが知らなかった叢書誕生のお話をありがとうございました。



健康のために太極拳を始めてみませんか

高齢になると足腰が弱くなり、バランス機能も低下し、転倒しやすくなります。転倒をきっかけに、寝たきりになる人も増えています。又、高齢者は心肺機能が低下し、呼吸が浅くなり、風邪や肺炎に罹りやすくなります。これらを予防するためには、日頃からの鍛錬が必要です。

太極拳は高齢者の足腰とバランス機能の強化と心肺機能を高めるのに、効果的な運動です。太極拳は中腰の姿勢を維持し、ゆっくりと深い呼吸をしながら動いて行きます。そして右足から左足、左足から右足へと重心を移動させながら動いて行くので、バランス機能を養うことが出来ます。ゆっくりした動きなので、心拍数もそれほど上がらず、高齢者に適した運動です。

太極拳は我々が日頃意識することのない「立つ」「歩く」「呼吸する」ことに意識を向けます。「歩く禅」であり、「動く気功」です。太極拳を行う上での心構えとして、調身、調心、調息の三つの要素が大切です。調身とは正しい中腰の姿勢を保つこと、調心とは心を整えること、調息とは深い腹式呼吸を行い、息を整えることを言います。そして、この三つの要素を三位一体として調和させることが肝要になります。



現在、中国のみならず世界的に普及している太極拳は、簡化二十四式太極拳です。伝統的な太極拳の技を踏まえて健康太極拳として簡素化し、大衆化したものです。横浜市等各市の地区センターでも、この簡化二十四式太極拳の講座が開かれています。健やかで元気な老後を過ごすための一助として、太極拳を始めてみませんか。

神奈川同窓会では同好会の「太極拳クラブ」があり健康推進運動普及に向け、弘明寺サロンやホームカミングデーなど各行事の終了後短時間繰り返し行い、知らない間に健康維持に繋がるよう当該指導を澤村氏にお願いし、「気功法」を中心に活動を続けています。皆様一緒に始めてみましょう！！(金田保男)

弘明寺サロン・レポート

学生、卒業生を問わずどなたでも参加出来る弘明寺サロンも昨年12月10日で第50回目の開催となりました。山田俊治客員教授より「司馬遼太郎の『翔ぶが如く』で読む西南戦争」との標題で、明治の大革命で居場所を失った薩摩隼人たちが維新の英雄であった西郷隆盛と共にどのように政府と対立していったのかを講演いただきました。第51回は「剣岳・点の記」の映画上映会を映画研究同好会の主催で開催しました。

第52回は3月11日「仮名手本忠臣蔵」のDVD鑑賞です。これは4月6日の第53回弘明寺サロン「ぶらり散歩東海道・戸塚宿」で散策のコースにあるお軽勘平の戸塚山中道行の場の予備知識を映像で学ぶためのものです。第53回では戸塚駅を出発、高松寺、羽黒神社、海蔵院、上記「お軽勘平の碑」の確認、浅間神社の約6キロの行程を快晴の下、参加者全員元気に踏破しました。この「ぶらり散歩東海道」はシリーズとなっており開催も3回目、佐菜同窓会会長の綿密な下調べも人気の一つです。(万場由美子)



社会貢献活動 (プラン)



神奈川同窓会では社会貢献活動として、会員の皆様からご寄付頂き、5名の子ども達に各6万円、計30万円をプラン・インターナショナル・ジャパン (PIJ) を通じて支援しています。この寄付は直接子ども達の手元に現金で渡されることはなく、子ども達の住む地域の生活・教育環境改善などのために使用されます。さらに、国内外の災害などに対するPIJからの緊急支援要請

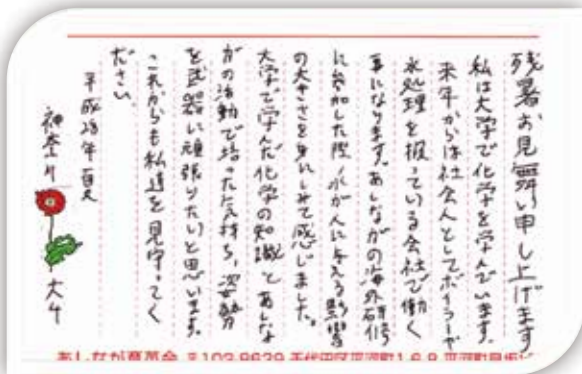
に対しても寄付しています。今後も会員の皆様のご理解・ご協力により PIJ の活動を支援する形で途上国の子供達の教育・生活環境向上のための活動を続けていきます。

会員の皆様には、この支援・活動を単なる寄付としてだけでなく、是非途上国、あるいは途上国の子ども達が持つ問題について学ぶ機会として頂きたいと思えます。(石橋正彦)

社会貢献活動(あしなが育英会)

神奈川同窓会では大学叢書の販売利益金全額をあしなが育英会に寄付しています。平成28年度は107冊の売り上げで39,788円でした。

毎年夏には育英会基金で学ぶ学生から礼状が届きますのでご覧ください。(村田カズ子)



第10回映画上映会のお知らせ

同窓会では次回上映会を下記の通り開催します。皆様のご参加をお待ちしています。

映画タイトル:「タイタニック」

日時:平成29年8月12日(土) 13:30~17:00

会場:神奈川学習センター第8講義室

あらすじ:1912年に起きた英国の豪華客船タイタニック号の沈没事故の実話を基に、貧しい青年と上流階級の娘の悲恋を描いている。

前半のラブストーリーから後半の緊迫感迫る遭難の場面や多様な人間模様が見事に描かれる。

(大野貴司)



会員投稿写真



「天国に行ったミミちゃん」

長い間、家族の一員であったミミちゃんは、いつも何かを考えているような眼で私を見つめていました。今は、お空からいつも私を見つめてくれていると感じています。

佐藤ひろ子

事務局だより

平成29年4月1日現在の会員数は605名です。なお、『波濤』52号(平成29年1月14日発行)に掲載以降の新入会者は、下記の通り34名です。心より歓迎申し上げます。(敬称略)

河合弘明	赤嶺治美	南出佳伸	中田昭道
小山雄一	菊山サチコ	糸結花子	松井憲哉
根本キヨ	高久富美枝	藤田重則	平澤映二
保田珠江	正木ツエ子	渡邊知子	小林 光
高橋知成	折本清和	田中千雄	佐藤公一
山田絵里	上原澄男	野間弘子	村井春江
関口静子	木村隆男	荒川太郎	竹内礼子
尾山理恵	大沼知恵枝	宮澤裕一	安西由紀
河野 誠	福島由美		

神奈川学習センター「名誉学生」のお知らせ

金井彰彦様 赤嶺治美様

訃報

木村勝紀様 永江紀恵様
心よりお悔み申し上げます。 合掌

編集後記

木村元会長のご逝去のお知らせがありました。永年のご指導に感謝するとともに、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。(永井藤樹)